

生き生きむらだよりNO. 31

平成22年7月 宮城県大河原地方振興事務所農業農村整備部発行

●管内ニュース

● 住民活動支援業務—川崎町前川地区～平成22年度 農作業体験 in 前川～

川崎町の中山間地域に位置する前川地区では、地域資源を活かした活性化を図るため、平成20年に地域住民によるワークショップを行い、地域活性化構想をまとめました。

平成21年には、地域の活性化に向けた具体策の検討として、地域における生産組合のあり方等、生き物調査を実施し、地域の子どもの視点を取り入れた施設整備等について、みんなで考えてきました。



平成22年は、次代を担う地元小学生（3・4年生12名）を対象に、生産者と消費者両方の立場をとおして“地産地消”を学んでもらうため、「農作業体験」を行っています。



第1回目は6月22日(火)、枝豆の種播きとスイートコーンの播種、苗植えをしました。7月16日(金)には、第2回目としてサツマイモの除草作業とソバの播種、1回目に播種したスイートコーンの間引き作業を行いました。1回目と2回目とも、児童達は楽しみながらも真剣に作業を行っていました。農作業体験は、全4回で作物の作付け～収穫～調理まで行う計画で、第3回目は作物の生育状況を見て収穫体験と調理を行う予定です。【計画調整班】



● 21世紀土地改良区創造運動～住民参加による美化活動～

● 仙南東部広域農道でコスモスの種まき活動を行いました。

平成22年7月8日(木)、大河原町金ヶ瀬ほ場整備地区を横断する『仙南東部広域農道（さくらロード）』で、コスモスの種まき活動が行われました。

この取り組みは今年で6回目を迎え、広域農道を利用する人々に心癒される田園風景(景観)を提供しようと、水土里ネット黒水が主催しているものです。

当日は地域住民や関係機関、合わせて69名の参加のもと、区間延長1.2kmにも及ぶ農道植樹帯のハナミズキの間に、約1時間30分かけてコスモスの種播きを行いました。

今回播いたコスモスの種は、9月中旬から咲き始める予定です。



【計画調整班】

● 経営体育成基盤整備事業の動向

● 平成22年度新規採択で、経営体育成基盤整備事業が施行されます。

村田町針生前地区では、平成22年度新規地区として、経営体育成基盤整備事業（面的集積型）が施行されます。

大河原管内における、経営体育成基盤整備事業の新規採択は5年ぶりのことです。

針生前地区では、地元住民の合意形成を図りながら、地域における将来構想を考えて行くため、平成19年3月、経営体育成基盤整備事業推進協議会を設立。これまで40回以上の話し合いを重ね、基盤整備事業の必要性、将来の営農構想を考えてきました。平成21年度からは土地利用調整組織（アグリセンター）設立に向けた勉強会を始め、基盤整備事業を契機として、地域では農地の有効利用やより効率的で安定的な営農を目指す意識が高まっています。

全体工期はH22～H27年度で、平成22年度は測量設計業務を行います。

【計画調整班・農地整備第一班】



針生前地区全景

● 中山間地域総合整備事業の動向

● 中山間地域総合整備事業～地域の活性化に向けて～

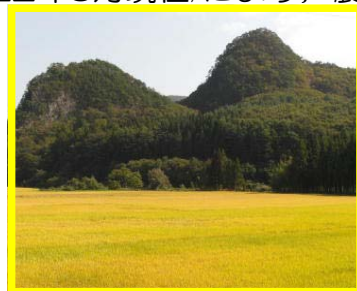
「七ヶ宿源流米で いきいき はつらつ 七ヶ宿」

七ヶ宿町は水源の里として、県内183万人に飲料水を提供している町です。しかし、人口減少(1,676人:H22年4月現在)と高齢化の進行(43.8%:H22年3月現在)により、農業生産者の高齢化や農業従事者の減少に加え、耕作放棄地の発生等、将来の営農に大きな課題を抱えています。

そのような中、地域の問題点について地元で話し合いを重ねた結果、生産環境の整備、農地の保全（耕作放棄地発生防止）、生産意欲の醸成等を図っていく観点から、基盤整備事業の機運が地域住民の中で高まり、平成22年度中山間地域総合整備事業新規地区として、七ヶ宿2期地区が施行(工期：H22～H27年度予定)されることとなりました。

また七ヶ宿町では、“七ヶ宿源流米(以下、源流米)”のブランド化を進めています。新品種の「やまのしずく」が平成20年第10回米・食味分析鑑定コンクールで金賞を受賞しており、第11回大会では七ヶ宿源流米ネットワーク(源流米の生産者により、平成20年7月設立。構成員は9名。)のメンバーが2名特別優秀賞を受賞しています。本事業を一つの契機として、源流米の作付け面積拡大を図り、町全体で“七ヶ宿町源流米”を柱とした農業振興を図っていく方針です。

【計画調整班・農地整備第一班】



七ヶ宿町の田園風景



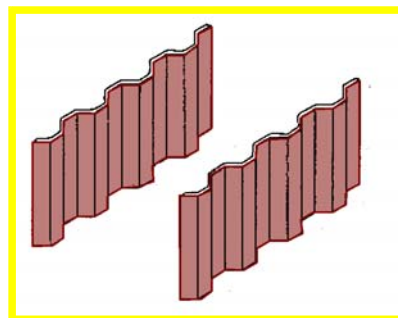
源流米のパンフレット

●仙南地域の広域農道

● ～金ヶ瀬さくら大橋上部着工予定～

平成20年度から下部工に着手してきた白石川に架かる金ヶ瀬さくら大橋は、平成22年度にすべての下部工（5基）の完成が見込まれ、いよいよ上部工に着手する予定です。

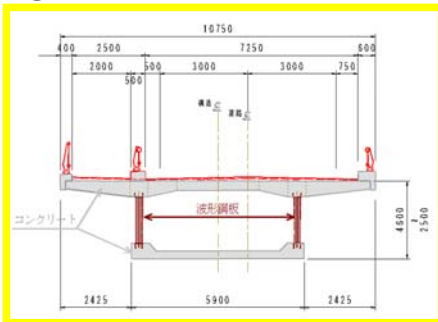
本橋梁（波形鋼板ウェブ橋）は、波形形状に加工した構造用鋼板を通常のPC（プレストレストコンクリート）橋のウェブとして配置した、コンクリートと鋼の複合構造であり、下記のような利点があります。



波形鋼板イメージ図

①PC橋において主げた自重の15～30%程度を占めるウェブを軽量の波形鋼板とすることで主げた自重の軽減が図れ、上部構造だけでなく基礎・下部構造の縮小化も図ることができる。

②コンクリートウェブの鉄筋組立、シース配置およびコンクリート打設などの作業が省略でき、施工の省力化を図ることができる。



主桁断面図

このように波形鋼板ウェブ構造は、施工性や経済性において優れた構造であり、PC橋の新たな構造形式として注目されています。

この上部工は、平成24年9月に完成し、その後は、橋梁の取付区間の付帯工事を行い、平成25年4月に開通する予定となっています。 【農地整備第二班】



金ヶ瀬さくら大橋完成イメージ（茶色に見えるのが波形鋼板）

【お知らせ】

宮城県大河原地方振興事務所では、事務所内各部等の情報を県民の皆様へお知らせするため、広報紙「SENNAN THE KING」の発行を始めました。発行は年4回の予定です。

●宮城県大河原地方振興事務所のホームページ

<http://www.pref.miyagi.jp/oksgsin/>



● 市民の憩いの場がリニューアル

● 手代木沼（角田市）の水辺環境事業が完了しました。

手代木沼は、角田市の西部に位置する農業用ため池ですが、春には桜、夏にはハスが咲き、冬には白鳥が飛来し、市内外から多くの人々が訪れる憩いの場となっています。

しかし、波浪による浸食のため、堤体が脆弱化し危険な状況になっていました。そこで、平成13年度から農林水産省の補助を受け、ため池の機能強化と併せて親水空間を創出することを目的に、県営地域環境整備事業によりため池の改修工事が進められてきました。

手代木沼は、農業用ため池であるとともに、地域の憩いの場であったことから、整備計画は、地元住民の方々や白鳥を守る会の方々などからも御意見をいただき、この沼の景観のシンボルである桜並木や白鳥、沼の生物などに配慮し工事が行われてきました。

平成22年3月までに、桜並木を活かした堤体の整備、地元角田市の間伐材を活用した親水デッキや、木材チップにより舗装された遊歩道、トイレ、安全柵、駐車場などが整備され、また多目的広場も整備し、地元の農産物の販売も行われる人々に親しまれる「手代木沼」としてリニューアルしました。

木々をゆらす風の音や鳥たちのさえずりに耳を傾け、水面で踊る光を感じながら、有名観光地にはないゆったりとした時間を過ごしに一度訪れてみてはいかがでしょうか。

【水利施設保全班】



水辺環境が整備された手代木沼

● 農業農村整備部の新たな取り組み

● 管内土地改良施設等の調査を行っています。

大規模災害が発生した場合、部職員が被災力所確認調査等に行けるよう、部全体を通常業務とは別に4つの班に分けて、管内土地改良施設等調査を行っています。

これは事前に、調査対象施設（土地改良施設や中山間交流施設、国交省施設、歴史施設等）周辺の様子や地理等を把握することで、不測の事態に際し、迅速な対応が出来ることを目的としています。

調査は、4つの班それぞれが、4つのブロックに分けた管内2市7町を、毎月1～2回のペースで行っています。



施設調査の様子

【計画調整班】

【この資料に関する問い合わせ】

- 宮城県大河原地方振興事務所 農業農村整備部 計画調整班（農村活性化担当）
電話：0224-53-2639 FAX：0224-53-3071
ホームページ⇒ <http://www.pref.miyagi.jp/oksgsin/nn-top/menu-nn-top.htm>